

2020年11月6日  
東邦電機工業株式会社

## 踏切設備の保守の効率化に向けた実証実験に参画

～踏切設備の動作ログを遠隔取得できるシステムの開発～

東邦電機工業株式会社（本社：東京都目黒区、代表取締役社長：村田章臣、以下「東邦電機工業」）は、九州旅客鉄道株式会社（本社：福岡市博多区、代表取締役社長執行役員：青柳俊彦、以下「JR九州」）、およびソフトバンク株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員 兼 CEO：宮内 謙、以下「ソフトバンク」）と、踏切設備の保守の効率化に向けて踏切設備の動作ログを遠隔地から確認するシステムの実証実験を、2020年11月20日から2021年1月31日まで実施します。

踏切設備の動作ログを記憶する、東邦電機工業の「情報メモリー VAM/VAM32 シリーズ」は、記憶内容を収集する際、これまで現地の踏切まで足を運ぶ必要がありましたが、より効率的な情報収集の方法を確立することは、ユーザーであるJR九州様にとって、重要なテーマのひとつとなっていました。

このたび、東邦電機工業はソフトバンクの IoT プラットフォームを利用した、踏切設備の動作ログを遠隔地から確認できるシステムの開発に参画。本システムの導入により、踏切設備にトラブルが発生した際、踏制御装置・踏切警報機・踏切遮断機などから構成される踏切設備の動作ログを遠隔地から収集し、既存の解析用アプリケーションを活用することで、原因の特定や復旧への早期対応につながることが期待できます。

### ■ イメージ図

